



ライフを生きる

Life vs. Living

永田円了

きれいな夕焼けは、何か人間の手のとどかないところに、大いなるエネルギーの源があることを確信させてくれる。一瞬なりとも、我を忘れ自然の驚異に身をまかせるとき、ちっぽけな自分は欠片もなく、自他の区別さえ色あせて深紅の夕暮れに溶け込む。そんな気分はなんとも最高である。“ライフを生きる” 感覚がチラリと現れる瞬間でもある。

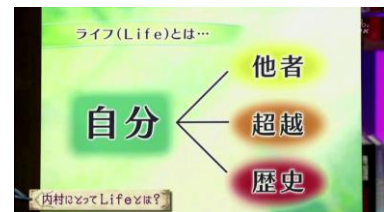
当たり前のことだが、目の前の経済 (Living) なしには、家族も自分自身も養っていくことはできない。着衣喫飯 (ちゃくいっぱん) が満たされてはじめて、夕暮れ的美しさを味わることができるのかもしれない。だが経済だけの人生はなんとも味気ない。

内村鑑三のいう“ライフ (Life)” とは

ライフ (Life)、この英語はなかなか日本語の単語で表すことは難しい。ウィンストン・チャーチルは次のように言った。We make a living by what we get, but we make a life by what we give. (我々はお金を稼いで生計をたてる、しかしそれだけか。我々は無償の行いをもって、人生を豊かなものにするのではないのか。)

キリスト教思想家・内村鑑三 (1861-1930) は、世の中で足りないもの、それは、“ライフ (Life)” の欠乏だ、と言った。即物指向、拝金主義に偏っていた明治の社会を評したものだ。内村はライフを次の3つの要素で表わしている；

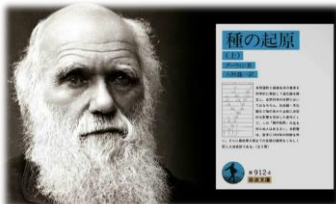
他者、超越、歴史。 他者とは、自分をとりまく人間関係。超越とは、天の意味、(キリスト教徒はこれを神、仏教徒は仏と呼ぶかもしれない)。歴史とは、亡くなった人との関わり。この三要素との関係性が保たれるときに“ライフ” が自覚できるという。



ダーウィンの『種の起源』

将来何が起るか誰も分からない。世界中でコロナウイルスがここまで蔓延するとは誰が予測はできたであろうか。何か起こった時、強い者や賢い者が生き残るとするのは間違いである、とダーウィンは「種の起源」の中で述べている。

「運と適用」が生き残りを決めるという。環境の変化をそのまま受け入れ、あとは運に任せるということである。



「人間の90%以上は、一生やりたい事が見つからないまま死んでゆく」という (APU 学長、出口治朗氏)。以下出口氏の講義より ~ 大阪なおみ選手は何十万人中一人の逸材、ほとんどの人は、大阪なおみのようなすば抜けた個性はもっていない。やりたいことを見つけることができる人は、ごく少数の恵まれた人。ほとんどの人は特にやりたい事がみつからないまま漂っている。それでいいのである。漂

っているなかで、出会いがあり、その偶然の出会いがその人の人生を決める。人生は川の流れて行くもの。流れ着いた処で、一生懸命やってみれば、何かおもしろいものが見つかるかもしれない。

<事例 DVD>

マーラー「復活」/指揮：ジェイムズ・デブリースト
千と千尋の神隠し/眠っていた千尋の“生きる力”が呼び覚まされる
映画「ナチュラル」/人には2つの人生がある；学ぶ前をその後には歩む人生
内村鑑三/世の中で足りないもの、それは“ライフ”(い・の・ち)
出口 治明/人間の90%は、一生やりたい事が見つからないまま死んでゆく
歌・ジュピター/愛をまなぶために孤独があるなら、
意味のないことなど起こりはしない

円了のホームページ: www.enryo.jp

